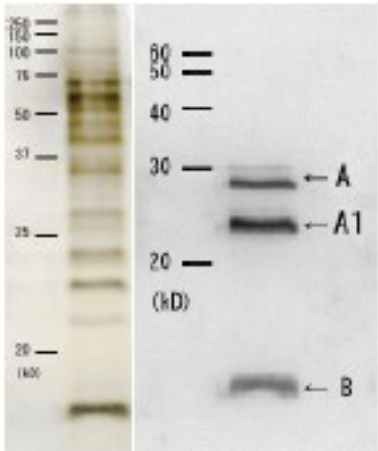


抗コレラ毒素抗体, ウサギ抗血清

商品コード	64-007
容量	100 μ l
保存	-20 $^{\circ}$ C 凍結融解を避ける
濃度	N/A
バッファー	0.05% アジ化ナトリウム添加
純度	ウサギ抗血清
抗原	<i>Vibrio cholerae</i> 569B 株の培地より精製されたコレラ毒素
アイソタイプ	ウサギ IgG
反応性	コレラ毒素
アプリケーション	1. ウェスタンブロッティング (1/2,000 希釈) 他の用途は試されてない
背景	コレラ毒素はコレラエンテロトキシンとも呼ばれ、激しい下痢を伴う食中毒を起こす通性嫌気性のグラム陰性菌 <i>Vibrio cholerae</i> が産生する。 コレラ毒素 は分子量 27.2 kD の A サブユニット 1 分子と 11.6 kD の B サブユニット 5 分子からなる複合体である。 コレラ毒素 は B サブユニットを介して、標的細胞表面にあるガングリオシド GM1 に結合し、細胞内に取り込まれる。細胞内で分離、プロセスされた A1 が G タンパク質の一つである促進性 G タンパク質(Gs)の α サブユニットを ADP リボシル化し、アデニル酸シクラーゼの持続的な活性化を引き起す。
Data Link	UniProt KB Cholera toxin
画像	 図左 コレラ菌培養液の SDS-PAGE <i>Vibrio cholerae</i> 569 株細胞抽出液を還元条件の下に電気泳動し銀染色を行った。 図右 コレラ菌培養液のウェスタンブロッティング <i>Vibrio cholerae</i> 569 株細胞抽出液を還元条件の下に電気泳動し、この抗体を用いたウェスタンブロッティングを行った。A は未切断の前駆体、A1 は切断されたサブユニット、A2 サブユニット (5 kDa) はゲルから流れ出てみれない。B はサブユニット B である。
文献	- Hirst TR and D'Souza JM In <i>The Comprehensive Sourcebook of Bacterial Protein Toxins</i> Alouf J and Popoff M ed. 3rd edn. p. 270-290 Academic Press (2006) - Finkelstein RA and LoSpalluto JJ "Pathogenesis of experimental cholera. Preparation and isolation of cholera toxin and cholera toxinoid." <i>J. Exp Med</i> 130: 185-202 (1969) PMID: 4978880 - Iijima Y and Honda T "Enterotoxin of <i>Vibrio Cholerae</i>." In <i>Recent Advances in Marine Biotechnology</i> Fingerman M and Nagabhushanam R ed. Science Pub. Inc. 7: 41 (2002)
※本製品は研究用です。診断および軍事目的に使用することはできません。	